

秋田県をご存知か

JA北海道厚生連札幌厚生病院 初期臨床研修医
やまなかりょう たろう
山中遼太郎

Do you know “AKITA”?

某有名インド映画を彷彿とさせる一文から始めさせていただきます。

「秋田県くらい知っているよ!」「秋田県と訳すならprefectureを入れろ!」というお叱りが飛んできそうですが、前者の方には、さらに「では秋田県を訪れたことは?」と問いたい。意外と行かれたことは無いのではないのでしょうか。因みに後者のヤジを飛ばした方は無視させていただきます、prefectureをいれると語感が悪い。

自己紹介が遅れました。札幌厚生病院 1年目初期研修医の山中遼太郎です。父が司馬遼太郎氏の愛読者であり、そこから名を取ったそうですが、同氏ほどの文才は微塵もありませんのでご容赦ください。2年目の先輩である平野雄介先生からバトンを引き継ぎました。執筆時点ではまだ初期研修医1か月を経たのみの若輩の中の若輩です。平野先生とも知り合って1か月ですがとても優しく面白い先輩であり、今後もしばしば頼りにさせて貰おうと画策しております。

私は出身自体は札幌市であり19歳までほぼ札幌市にいましたが、何の縁あってか秋田大学医学部に入学し秋田県で6年間を過ごしました。

皆さんは秋田県と聞くと何を思い浮かべるでしょう。なまはげ、秋田美人、秋田こまちにきりたんぼと、この辺はコンスタントに出てくる感じでしょうか。自然豊かでご飯が美味しそう、雪が多そう。自分も秋田に行く前はこの程度の認識でした。ですが、6年も暮らしているとそうした一般的なイメージよりも少しディープな秋田が見えてきます。そんな少しディープな秋田のお話をさせてもらおうかと思えます。

まずは物価が安い。地方ではあるあるですが、ともかく物価が安い。駅前の駐車場なのに100円/時間だったり、男4人で焼き鳥屋に飲みに行き、たらふく食べて飲んで1人5,000円行くか行かないかだったり、具体例を挙げるとキリがないですがとにかく物価が安い。家賃も安い、月5万円も出すとかなりの広さの家に暮らせます。

焼き鳥屋の話を書いたのでご飯の話も。秋田といえば、きりたんぼだったり稲庭うどんだったり比内地鶏だったり。これらも当然美味しいのですが、住んでいた人間目線で美味しいお店をいくつかご紹介します。個人的に秋田で最も推しているお店は秋田市新屋にあります「かつ丼多勝」です。数年前に「バナナマンのせっかくグルメ!!」というTBS系列のバラエティ番組でも紹介されたことがあります。本当に美味しいです(悲しいかな、実は秋田県は基本TBS系列は観れません)。一度あそこの味を知ってしまうと、他の豚カツでは簡単には満足できなくなってしまいます。また、美味しいつけ麺を食べた



札幌市出身、北嶺中等高等学校を卒業し一浪を経て秋田大学医学部に行きました。写真は秋田県某所でなまはげと共に撮ったものです。大学生になって初めて道外で暮らしましたが、様々な文化的違いを実感できて良かったなと思っています。

ければ「竹本商店★つけ麺開拓舎 土崎店」がおすすめ。熱々の器に煮えたったスープとつるりとした食感の麺、そして食べ終わったスープにカツオ飯なるご飯を入れてかき混ぜてできる雑炊が絶品の一言。洋食屋も美味で、個人的には千秋明徳町にある「ポッポ」がおすすめです。トルコライスとハンバーグの美味しさには舌鼓を打つこと間違いなし。秋田市からは離れてしましますが、羽後町にある「百姓そば屋 彦三」のかき揚げ蕎麦は一度食べてみたいですね。春菊のかき揚げが器を全面に覆っており、緑一色の迫力たるや。そしてそのかき揚げとお蕎麦の美味しさたるや。ここのかき揚げ蕎麦を食べずして秋田県のかき揚げ蕎麦は語れまいと思ってしまう程の美味しさです。

ご飯の話で盛り上がり過ぎてしまいましたが、秋田県といえば温泉も有名。入浴剤にもなっている乳頭温泉は誰しも一度は耳にしたことがあるでしょう。山奥にひっそりと佇む様子はまさに秘湯、泉質も滑らかでとても好きです。が、個人的にさらにおすすめなのは玉川温泉です。玉川温泉と田沢湖の歴史は大変興味深いのですが、それをここで書くには余白が足りないので割愛させていただきます。ぜひググってみてください。玉川温泉の特徴はなんといっても強酸性の湯、実際に入ってみると分かりませんが大変刺激的です。湯上がりの全身のさっぱり感は堪りません。ですが、くれぐれも鼻の中に間違えて吸い込んだりしないよう、大層エクセレントな刺激が鼻腔を襲います。

長々と秋田の魅力(のほんの一部)を語らせていただきました。2023年5月現在、北海道(新千歳空港)と秋田県(秋田空港)を結ぶ飛行機は毎日JAL 2往復ANA 2往復、朝から夜まで出ていてアクセスも悪くないです。ただし、秋田県内は公共交通機関はあまり無いので県内を巡る際はレンタカーは必須です。それでもいろいろと巡るには価値ある場所かと思えます。いわゆる「都会の喧騒を離れ自然を楽しむ」の教科書と言っていいと思っています。少しは秋田県の魅力を感じて貰えたでしょうか。そもそもこの場で書くのに相応しい内容だったでしょうか。一抹の不安は残りますが最後はこの一文で締めさせていただきます。

How do you like “AKITA”?

“秋田県” どうでしょう